

少しでも先を歩くセンパイたちに、どんなことを考え、経験し、道を行ってきたのか質問してみましょう。あなたも一歩踏み出せば、自分が思い描く未来に手が届くかもしれません。

あなたのあるく

一歩さき



耕作放棄地を活用したい思いから 農業の無人化を実現する

帯広畜産大学
畜産学部 1年

かつらだ ひなた
桂田 陽向 さん

高校生が農家になる。「桂田農園」を立ち上げた桂田陽向さんは、同じ若狭高校の友人である兼田悠汰さん、百田康志さんとともに、実践の中で農業を学びながら耕作放棄地の活用に挑戦しました。そんな高校時代を経て、農業の世界へさらなる一歩を踏み出そうとしています。



高校時代



現在の桂田さん

Q：桂田農園を立ち上げたきっかけはなんですか？

祖父母の畑仕事の手伝いでした。それまで畑仕事に興味はなかったのですが、自作の野菜を収穫したときに感動しました。さらに、収穫した野菜を試みにネット販売してみると、買ってくれる人がいたのです。それで、育てるのも食べるのも楽しい野菜作りが仕事になる「農業」に関心を持ちました。その後、祖母から地域の高齢化が原因で使われていない農地が増えていると聞き、「せっかく野菜を作れる場所なのにもったいない」と感じました。耕作放棄地を活用した農業を始めたいと学校の先生に相談したら背中を押してもらえ、話を聞いた兼田さん、百田さんが仲間になってくれたので、思い切って農園を立ち上げました。

Q：どんなことを実践できましたか？

耕作放棄地だったので、石を拾い、土を耕し、堆肥をまくところから始め、家が近い百田さんと

協力してバジルやそら豆を育てました。また、兼田さんが開発した、カメラやセンサーで作物を遠隔で観察するシステムや葉の面積を記録してグラフにする技術を導入し、作物の成長を可視化して農園の取り組みをわかりやすく発信できるようにしました。畑の管理は大変でしたが、収穫した野菜を近隣の飲食店などへ販売し、栽培から収穫、販売まで農業全体の過程を楽しく経験できました。

Q：今挑戦していることを教えてください

無人で動くトラクターの開発など、農業の自動化を目指して農業工学を学べる大学へ進学しました。農作業はとても大変だったので、機械で手間を省いて野菜を栽培できれば耕作放棄地をもっと活用できると思っています。農学と工学の知識を組み合わせることで生産性が高く効率的な農業を実現できるシステムをつくり、耕作放棄地の活用だけでなく、食料不足や食料自給率の問題解決にもつながりたいと考えています。（文・小山 奈津季）